

## 平成 26 年度 榴岡図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 平成 27 年 3 月 7 日（土） 13 時 30 分～15 時
- 2 会場 生涯学習支援センター 5 階会議室
- 3 出席者 ご利用者 : 5 名  
榴岡児童館 : 1 名  
ボランティア : 2 名（内訳：おはなし会ボランティア 2 名）  
榴岡図書館 : 榴岡図書館長 他 6 名
- 4 内容
  1. 開会
  2. 挨拶 榴岡図書館長
  3. 自己紹介
  4. 平成 26 年度の取組み
  5. 榴岡図書館へのご意見・ご要望等
  6. 閉会

### 5 榴岡図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

#### （1）榴岡図書館の事業へのご意見・ご要望

##### ○駅東に関する連携について

- ・図書館に来てもいつも自分の目的の所にしか行かないので、こういう事業をしているのはほとんど知らなかった。地域連携は非常に良いと思う。自分も仙台駅東エリアマネジメント協議会に所属しており、仙台市生涯学習支援センター 1 階の展示フロアで 100 年前の仙台七夕について、仙石線が走っていたころの写真、ドールハウスなどの展示を行い、1,200～1,300 人の方が来て下さった。ぜひ、今後一緒に連携して頂きたい。

##### 【回答】

- ・確定ではございませんが、平成 27 年度に、「昭和レトロ」をテーマとした展示を行う予定です。また、指定管理を開始した平成 24 年度から、「駅東」というテーマで榴岡図書館だよりを発行しております。東口、駅裏の PR についてぜひご相談させていただければと思います。

##### ○選書サポーターについて

（開催時期、開催回数、PR 方法などはどうでしたか？という図書館からの問いかけに対する回答含む）

- ・開催時期は今の時期で問題ない。実施回数（現在：5 回）は少ない気がする。実施する間隔も 1 か月に 1 回程度なのであまり親しくなれない。そのような交流を求めるのであれば、月 1 回開催で期間は半年、という形ではなく、月 2～3 回実施して、期間を 3 か月位にしてみてもどうか。回数を増やす場合は、欠席も可、という形にすると良いと思う。今のやり方では友達になりにくい。今年度の選書サポーターについては、高校に配布されたというポスターからではなく、家族から教えてもらった。PR 方法としては、貸出を受けている間に、チラシをカウンターで見られるようにすると良いのではないかと思います。
- ・開催時期は今の時期で問題ない。他の図書館でも選書サポーター（※1）をやっていると聞いたので、そちらとも関わることができたら良いと思う。今年度の選書サポーターについては、図書館に置いてあったチラシで知った。PR 方法としては、前年度の参加者に勧めてもらったり、新しい人を誘って一緒に参加してもらったりすると良いのではないかと思います。初めて株式会社トーハン東北支店を訪問したが、図書館とはまた違う感じがしたもの、思ったよりは本が少なかった。

- ・選書サポーターのメンバーを集めるのが大変だと聞いたが、そもそも中高生向きの事業が少ない気がする。学校単位ではなく、やりたい人を集めての職場体験や、ビブリオバトルなどを実施しても良いのではないか。
- ・榴岡図書館に中高生自体があまり来ないのではないだろうか。図書館として小規模だし、知名度も低い。まずは榴岡図書館に中高生をどうやって呼ぶかが課題だと思う。
- ・選書サポーターの募集期間は短いと思う。長期的な活動をするボランティアなどを集めて、その中からも募集するようにしてみてもは。そういうものがあれば、高校生も図書館に行くのではないかと思う。

#### ○地域連携について

- ・児童館と図書館が連携してできることはたくさんあると思う。ブックトークもつつじがおかサロン（※2）も有意義だと思うが、それだけでは足りない。榴岡図書館がもっとアウトリーチ（現場出張サービス）をすると良いと思う。ブックトークも、榴岡小学校だけではなく、宮城野中学校や東華中学校などでもやってみてはどうか。高齢者も多いので、読み聞かせやブックトーク、昔話など、高齢者と子供と一緒に聞けるものがあると良い。そうすれば一人では来られなくても、お孫さんとどうぞ、と勧められる。みやぎのまつり、ウィンターパーティーとはまた違う形で、榴岡図書館がもっと地域に入っていくことが必要だと思う。選書サポーターの広報に関しても、泉中央ののびすくなど、中高生が集まる場所の情報を集めるという工夫をされてはどうだろうか。

#### ○おはなし会の実施場所について

- ・一昨年、1階の展示フロアでおはなし会をしては？という提案をさせていただいていたが、実現はできそうだろうか。2ヵ月に1回などの頻度で実施してみても良いと思う。建物の1階に楽天ショップやフィットネスが入る予定なので、客層も変わっていくと思う。

#### 【回答】

- ・確定ではございませんが、平成27年度に1階の展示フロアにておはなし会をする予定がございます。その他にも、外を通る方から見てわかるような何かができればと考えております。

### （2）図書館サービス全般へのご意見・ご要望

#### ○所蔵資料の購入冊数について

- ・人気作家の購入冊数が少ない。半年とか1年ほど待つことになってしまう。本屋などで情報をチェックしておいて、発売日にパッと申し込むと意外と早く借りられるが、情報を見逃すと300人待ちとかになってしまう。購入冊数については仙台市へ要望としてあげてほしい。

#### 【回答】

- ・同じ資料の購入冊数については、仙台市全体で上限を決めております。図書館の立場として、広い範囲（ジャンル）の資料を集める、というところがございますので、書店等で情報をチェックして頂き、早めに予約申し込みをしていただければと思います。

#### ○所蔵資料について

（高校生の目線から見て、榴岡図書館に中高生が読める本はありますか？という図書館からの問いかけに対する回答含む）

- ・選書サポーターなどでライトノベルを取り入れてきているので揃ってはきたが、市民図書館や広瀬図書館、宮城野図書館に比べて数が少ない。
- ・図書館ではライトノベルだけでなく、調べるための資料も見ると、市民図書館に比べて榴岡にはあまりない。例えば理数系の資料とか、勉強用の資料があると良い。

- ・新作が少ない気がする。市民図書館には結構ある。最近のものも取り入れてみてはどうだろうか。

#### ○施設、設備に関して

- ・その場で調べ物をする場所や、メモをする場所がない。ＡＶ資料がない。自分は宮城野と榴岡の間に住んでいるので、ＡＶ資料を借りたい時には宮城野に行ってしまう。また、ＡＶ資料はジャンル検索ができないので、現場に行っても探すしかない。現場に行っても貸出中であつたり、開架になかつたりするため、見つければラッキー、というところがある。
- ・２，３行メモしたいな、と思った時、場所もないし、コピーとるにも忙しそうだし…と諦めてしまうときがある。
- ・雑誌コーナーの閲覧席は年配の方が使っているイメージ。なかなか使いづらい。入りづらい。
- ・３連のベンチなどを閲覧スペースにできないか。

#### 【回答】

- ・メモをする場所として、雑誌コーナーに机付きの椅子を１台設置いたしました。あと何台か入れる予定となっております。スペースの都合上簡単なものにはなっていますが、ご利用いただければと思います。ＡＶ資料に関しましては、ＡＶ資料を所蔵するとなると機器も揃える必要も出てまいりますため、なかなか難しいところであるというのをご理解いただければと思います。代替案として、例えば“時代劇”などジャンルごとに仙台市図書館のＡＶ資料の一覧をリスト（紙媒体）で置ければ、と考えております。
- ・開館当初は雑誌コーナーには書架がなく、所蔵資料数を増やすために増設した、というところがございます。資料の所蔵数を増やしてほしい、席を増やしてほしい、テーブルを増やしてほしい、など時代によって様々なご意見がございますので、その都度検討し、対応していければと思います。

#### ○図書館のＰＲについて

（図書館のチラシはあまり目に入らないでしょうか？という図書館からの問いかけに対する回答含む）

- ・図書館のＰＲについては、４階まであがらないとわからない。エレベーター前のチラシのラックを見るのもエレベーターを待つ数秒の間だし、チラシも重なっておいてあるので目に触れないことが多い。
- ・いっぱいあふれている広報から見つける、ということが難しい。
- ・１階にもチラシなどを置くコーナーがあり、発行物を置いているが、結構持っていかれる。１階には情報を求めている人が集まってくるが、４階はそうではないのではないだろうか。チラシによる効果は持っていかれた枚数の、良くて２～３パーセント、ものすごく良くて１０パーセントくらいなので、可能な限り多く配布することが大切だと思う。

#### 【回答】

- ・おはなし会などの子ども向け行事の際に、返却ポストの所にポスターを貼ってＰＲしたことがございます。今後もあの場所を使ったＰＲを考えたいと思います。

#### ○その他

- ・榴岡図書館の広さ（狭い事）がわかっているから、読みたい本はネットで探して予約してしまうので、最近の滞在時間は短い。予約の本を受け取りに行くときに入口の外と中の展示は見るので、「知りたいテーマを教えてください」という募集を行い、応募されたテーマに関する本の展示をしてみてはどうだろうか。今まで榴岡図書館には仙台市生涯学習支援センターで実施している事業に合わせて展示をしてもらったり、事業に関する参考文献の一覧を作成してもらったりした。それは事業の参加者もとても喜んだし、事業の後に図書館に寄っていたのでとても良かったと思う。
- ・図書館の狭さと本の少なさはレファレンス機能に特化したらクリアできるのではないだろうか。東

口のガイドボランティアの人達はとても調べることが好きな人が多いが、インターネットやPCが苦手な人は図書館のカウンターに行き、榴岡図書館にない本でも他の館から取り寄せてもらっている。その他、小学生にも調べ学習があるので、図書館の手助けがあればと思う。

- ・本の背が揃えてあるのがとても気持ちいい。入ってきたときにスッキリして見える。忙しいだろうと思いつつも職員に声をかけると、いつも笑顔で対応してもらえるのが嬉しい。

### (3) その他のご意見・ご要望

#### ○1階の展示フロアの活用方法について

- ・1階の展示フロアの有効な利用の仕方を検討し、本庁（仙台市）に提案しても良いのでは。議事録としても、市民サービスの向上のために要望をあげることは大切なことである。

#### ○図書館の場所について

- ・仙台駅が近いことが利点、という話があったが、自分たちの世代は同じく駅に近いブックオフの方が本が多いので、そちらに行くことが多いかもしれない。
- ・場所はわかりにくい。知人もネットで場所を調べて利用していた。榴岡図書館は泉、宮城野、メディアテークより規模は小さいが、職員がとても親切だと思う。貸出の時も笑顔で“ありがとうございました”と言ってくれる。利用者の中にはお子さん連れの方もいるが、職員との壁がなく、身近に感じられる。母方の祖父母も榴岡図書館を利用して、スペースのことは言っていた。スペースについてはもう何十年も前から意見が出ていることで、もうどうしようもないと思う。AVは取り寄せるとか、妥協が必要だと思う。

#### ○榴岡図書館の認知度について

- ・1階の入口に、入ってみたいと思わせる華やかな何かがあれば良いと思う。
- ・建物に図書館が入っているとわかるような何かがあると良いと思う。図書館に入ってさえしまえばやめられなくなると思う。学生時代に本を読んでいた人たちに戻ってきてほしい。駅が近いということをもっとアピールしてはどうだろうか。
- ・市民センター（現：仙台市生涯学習支援センター）の講座に来て、初めて図書館が入っているということを知った。
- ・仙台市生涯学習支援センターにも、図書館と同じように存在が知られていない、という懸念事項がある。
- ・1階の返却ポストを派手にしてはどうか。

#### 【回答】

- ・東口もどんどん変わっていき、新しい人も入ってきます。そういう人たちにとって、図書館に行けばある程度のことかわかる、というようにしたいと考えております。そのために、今まで連携してきた保育園、小学校を含め、東口の団体と連携していきたいと思っております。今は「あそこに図書館があったの？」と言われることが多く、建物の前を通っても図書館があるとわからないのが現状です。公共の施設であるため、榴岡図書館の看板だけを大きく表に出すことは難しく、費用の問題もございます。どうしたら、図書館があるということを知っていただけるかが課題であると考えております。

#### ○その他

- ・平日は仕事の帰り道にある市民図書館、土日は榴岡図書館を利用している。利用していると思うのは、先程AVを借りたい場合は宮城野に行く、というお話があったように、榴岡を利用している人は榴岡だけ利用しているというより、他の図書館と使い分けをしているのではないだろうか、というこ

とである。榴岡を利用するときの滞在時間は、1周してもそんなに時間はかからないので、1時間未満である。榴岡図書館は本の競争率が高くない気がするので、予約が途切れた本を借りやすい気がする。市民図書館などは予約が入っていない本でも、書架にあった場合すぐに借りられてしまう。自分は大体予約が切れるのを待って借りるか、待てないときは自分で買う、という利用の仕方をしている。本代はずいぶん助けてもらっている。

- ・以前宮城野中央市民センターで行われていた「みやぎのブックアソシエイト」というものに参加した。ビブリオバトルをしたり、ブックトークを聞いたりした。2週間に1回の実施で全4回の事業であり、やはり回数が少ないと思った。交流の場があるのは良いが、回数が少ないと友達にはなれない。その事業も自主的に5回目の集まりの場を設けた。読む本のジャンルがバラバラでも、本を通じて知り合いができたり、本の話ができたりするのは嬉しい。

(参加してみたいのはビブリオバトルですか？という図書館からの問いかけに対する回答含む)

- ・ビブリオバトルにはこだわらない。交流の場があると良いと思う。
- ・駅に近いというのはメリットだと思う。市民図書館にはあくまで仕事の帰り道だということで行っている。駅が近いとか、東口の歴史はメリットだと思う。狭いのはどうしようもないので、何かに特化していくのも良いのではないだろうか。
- ・「絵本は人生で3回は読む」というが、3回目（晩年）の人たちに多く読んでもらえる機会があればと思う。人を感激させられるものや昔話など、20年残しておきたい絵本を選んで育てていき、皆さんに気づいてほしいと思う。
- ・視野が狭い参加をしてきたと思う。(図書館の利用の仕方として) おはなし会や職員への質問ばかりだった。指定管理になってから親切にして頂いている。絵本は小さいころ読んでもらって、自分が親になって読む立場になり、今はおはなし会で2, 3歳児に向けて読んでいる。絵本は小さな美術館である。高齢者の方々にも見ていただきたい。児童館からのお話にあったように、高齢者と一緒に参加できる何かを、ということであれば手伝えることがあると思う。新刊は待つられないから書店で買ってしまう。
- ・宮城野図書館は空調のせいかもしれないが、厚着していると気分が悪くなる。図書館が地下にあるというのはまずいと思う。
- ・新しい人を採用したときに、心構えなどの教育はあるのだろうか。新しい職員を、利用者の立場から育てていければ良いのかな、と思った。

#### 【回答】

新規職員に対しましては、システムの操作研修や、接遇研修を行っております。

#### 【館長よりご出席の皆様に対して】

この場で回答できない事案に関しましては、報告書として市民図書館へ提出し、対応していきたいと考えております。

※1 他の図書館でも選書サポーターを～

⇒広瀬図書館で実施している「選書アドバイザー」を指す。

※2 つつじがおかサロン

⇒榴岡児童館と榴岡地区民生委員児童員の乳幼児向けサロン。